

生活科 授業の構想

(1年1組)

授業者 玉井一行

1 単元名「大きくそだて、ぼくらの〇〇 ①」

2 研究授業のテーマ

- 自分たちでできる動物飼育や植物栽培の計画を立てることによって、生き物に主体的にかかわり育てようとするができる。 【単元全体に関して】
- 自分たちで調べた飼育計画を、本当に自分たちで育てることができるのか、何のために育てるのかという視点で交流することによって、命ある動物を育てることと自分の生活とのかかわりに気付くことができる。 【本時に関して】

3 単元の目標

- 動物飼育や植物栽培の計画を立てたり、育てたりして、主体的にかかわり育てようとする。 《生活への関心・意欲・態度》
- 育てる生き物に親しみをもち、飼育・栽培の仕方を考え、自分とのかかわり方を表現することができる。 《活動や体験についての思考・表現》
- 動植物すべては生命をもっていることや成長していること、自分たちの生活ともかかわっていることに気付くことができる。 《身近な環境や自分についての気付き》

4 単元の指導計画（11時間扱い）

- 第1次 はやくめをだせ、ぼくらの〇〇・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5時間
 - ・2年生からもらった種との出会い、ひまわり・あさがおのたねまき……………2時間
 - ・学級園で育てるものを決め、栽培計画を立てる……………2時間
 - ・学級園に野菜の種や苗を植える……………1時間
- 第2次 動物と友だちになろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6時間（本時5／6）
 - ・動物たちとの出会い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
 - ・動物たちとふれあった時の気付き（さわった感じ、自分の気持ち）の交流……………1時間
 - ・飼育する動物の決定、飼育方法調べ、お世話の計画作り……………2時間
 - ・お世話の計画を交流（本時）……………1時間
 - ・飼育する動物との出会い（飼育活動の開始）……………1時間

5 研究内容とのかかわり

(1) 飼育・栽培活動で大切にしたいこと【研究視点1の1】

本単元は学習指導要領、各学年の目標(2)と、内容(7)と関連しています。また、指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱いの1(1)「地域の人々、社会及び自然を生かすとともに、それらを一体的に扱うように学習活動を工夫すること」を強く意識して本単元を構想しました。

《児童の実態調査の要旨》

＜飼育・栽培活動の経験から＞

- ・ 全ての子供たちに家庭で栽培の経験がある。
- ・ 飼育経験（過去・現在）のある子供は35名（92％）とほとんどである。
⇒飼育・栽培活動に対する興味・関心は高いといえる
- ・ ハムスターの飼育経験のある子供は6名（16％）いる。
⇒お世話の仕方について飼育体験をもっている子供たちからの波及効果が期待できる

＜動植物に対する意識の違いから＞

- ・ 学級の数名をのぞくほとんどの子供が動物や植物が好きである。
- ・ お世話の好きな子供と世話嫌いの子供とが半数ずつである。
⇒自分の楽しみとしてのかかわり方が中心の子供たちが半数いる

具体的な活動や体験の絞り込み

本単元を設定するために重視した子供の実態は上記にある通りです。実態から、子供たちの動植物に対する興味・関心は高いのですが、お世話することに対して意識の方向が半数ずつ異なっているという点に着目しました。また、お世話をする子供たちのかかわり方の内容も、仕事としての義務的な水やりや餌やりが多く、主体的に自分から声をかけたり、掃除をしたりと積極的に働きかける子供は13名（学級の1/3）にすぎません。

そこで、教科目標と子供の実態、一体的に取り扱う学習活動の工夫の観点との関連から、次のような活動や体験を絞り込んで以下のような視点から重点化を図りました。

【本単元で重視する活動や体験】

1次（栽培活動）で吟味した内容

- アサガオ・ヒマワリの種まき
- 野菜の種・苗植え
- 水やりなどのお世話

⇒2年生とのかかわり・日常化

- 成長の様子を絵や言葉で表現する

⇒継続・意欲化

- ヒマワリの種から

⇒目的意識

2次（飼育活動）で吟味した内容

- 出合いの活動「動物との触れ合い」
・旭川市旭山動物園出張授業

⇒地域人材の活用・意欲化

- 飼育する動物の吟味・（ハムスター）

⇒子供の生活圏，日常飼育，
2年生とのかかわり

- 2年間続ける飼育活動

⇒秋から冬へ，継続化

飼育・栽培活動の 関連付け

⇒ヒマワリの種を
餌として使う

【本単元の重点】

子供たちが飼育・栽培する生き物に対して、自分たちができることを考え、継続的・日常的、主体的に取り組む活動や体験

なぜ小動物(ハムスター)の飼育なのか

これまで附属小学校では低学年を中心に校地内にある飼育小屋を活用して「やぎ、あいがも、ひつじ、うし、ポニー」などの飼育活動を行ってきました。これらの活動について見直しを図るために、メリット・デメリットを右

記のように洗い出しました。

ここで着目したのは、日常化・継続化の面でのデメリットです。本単元でおさえた重点と重ね合わせた時、飼育活動として日常化・継続化を大切にしようと考えました。子供の生活圏を重視した時、栽培活動を関連させることが重要です。学級園や草花の

栽培によって得られる野菜や種を自分たちのためだけに考えるのではなく、子供の生活に根ざすという点から、飼育する動物たちの餌にもなることを考えさせます。このことにより、栽培活動においても、より明確な目的意識をもったお世話が期待できます。

飼育活動は日常のお世話という点から考えると、教室内または教室のすぐそば（プレールームなどで行うこと）がより適切です。継続性という点を考えても、2年間にわたっての長期継続を考慮することが子供の生活圏での飼育活動として必要です。

そこで、飼育する動物を選択する際には、子供たちに以下の視点を与えて考えさせました。

飼育する動物を考える視点

- 自分たちの力でお世話できること（子供レベルでの活動）
- 2年間続けてのお世話が可能であること（継続化・日常化）
- 栽培しているヒマワリは、秋に大量の種ができること（栽培活動との関連）

(2) 一人一人の個性を生かす単元構成の工夫【研究視点2】

動物に対する親しみを深める出会いの工夫

飼育・栽培活動は、継続して意欲的に世話しようとする興味・関心を高めることが大切です。そのための出会いの活動を工夫します。栽培活動では、前年度に2年生が育てて手に入れたアサガオとヒマワリの種と出会います。飼育活動では、動物に対する見方・考え方の違いから興味を高めるために、市内の旭山動物園の協力をいただき、旭山動物園出張授業として教室で7種類の動物たちと出会います。このことによって、これまであまり動物に直接接触した経験

のない子供たちも実際に触れあう中で、動物の体温ややわらかさ等に気付きます。また、これまで敬遠しがちであったへびなどの動物に対しても実際に触れてみることで親しみをもちます。このように「動物たちと一緒にいると楽しいな」という気持ちを醸成していきます。出会いの7種類の動物たちは以下の視点で選択しました。

【出会いの動物たち選択の視点】

- ウサギ（かわいらしさ、やわらかさ、温かさ）、イヌ（親しみやすさ、やわらかさ）
- チンチラ（やわらかさ大・ふわふわした感じ）、フェレット（においの強さ）
- モルモット（やわらかさ）、へび（敬遠がち、意識の変容が期待）、カメ（堅さ、やわらかさ）

飼育小屋での中型動物の飼育活動

<メリット>

- ・家庭ではなかなか飼育できない動物と触れ合える
- ・連続しての触れ合いが可能
- ・飼育小屋があることの安全面
- ・出会いと別れを体験できる

<デメリット>

- ・子供レベルでの日常のお世화에難点
- ・冬季間の飼育継続が難しい
- ・餌代にかかる費用が大きい

かかわりを意識させる表現活動の工夫

飼育・栽培活動は子供レベルでの問題解決的な場面が自然発生的に期待できる活動です。しかし、意図的な働きかけがなければ一人一人に確かな力は育ちません。動物や植物に対する気持ちの変化や、そのかかわりを意識させる表現活動を単元構成上に位置付けます。そして、子供レベルでの問題解決的な見通しを大切に考え、「自分たちでできる活動の計画」を考えさせる場面を重視しました。

— **【かかわりを意識させる表現活動の工夫】** —

- 栽培観察カード（植物と自分とのかかわり）
- 動物園へのお礼の手紙（動物園の職員や動物と自分とのかかわり）
- 気付き交流後の感想カード（友だちと自分とのかかわり） など

(3) 主体的なかかわりに気付かせる交流活動の工夫【研究視点3】（本時）

本時の交流活動では、主体的なかかわりに対する意識の相違に着目しました。これは、飼育活動に対して「自分の楽しさ・興味本位」の意識と「ハムスターにとってどうなのか」という飼育する動物のことを考えている意識です。交流を通して、自分の生活や自分とのかかわりで、自分なりに大切に育てようとする意識の高まりを期待しています。

主体的なかかわりへ気付く資料提示の工夫（本時）

この時期の1年生ができる調査活動では、「身近な人に聞く」ことが中心的な活動となります。これから自分たちで飼育するハムスターの飼育方法や注意点について「家の人」や飼育活動を継続している「2年生に聞く」という活動です。しかし、ただ聞いてくるだけでは主体的なかかわりへの大切な気付きを全ての子供たちが手に入れることはできません。そこで、本時の資料として2年生へのインタビューを録画したビデオを提示します。不足している情報を補い、子供たち自身が「主体的なかかわり」に気付くきっかけとします。

— **【資料提示で気付かせる視点とその内容】** —

- 自分たちのことだけではなく、ハムスターにとってどうなのか考えなければいけない
 - ・餌は好きなものならたくさんあげてよいのか
 - ・好む環境と好まない環境にはどのようなものがあるのか

自分なりのかかわり方に気付かせる板書や発問の工夫（本時）

本単元で重視した子供たちの『主体的なかかわり』とは、自分とのかかわりで考えることを意味しています。実態からも明らかなように、子供の側からの「かわいいと思う気持ち、自分の楽しみ」としてのかかわり方と飼育する相手（ハムスター）の側をも考えたかかわり方は異質のものです。このことに子供たち自身が気付き、自分なりのかかわり方を考えさせるために、意識の違いを分類した板書や自己中心的な意識を揺さぶる発問・助言の工夫によってその違いに気付けるようにしていきます。自分の生活（飼育・栽培、休み時間の過ごし方など）とのかかわりで考えようとする態度を期待しています。

— **【主体的なかかわりへの気付きを生む発問】** —

- かわいいだけでよいのか ○餌や水やりはたくさんやればよいのか
- どんな餌がよい餌なのか

【単元構想表】（12時間扱い）

	学習の流れ	主な学習活動	教師の働きかけ	研究との関連
1次 (5時間)	出会い ①	花の種との出会い	・学級歌を歌う, 2年生の思い	活動への意欲をもたせる出会いの工夫 【研究視点2】 身近な人々とのかわり 【研究視点1の2】 子供の日常性重視 【研究視点2】 気付きを深める表現活動の位置付け 【研究視点3】
	花や野菜を大きく育てるためにたねをまこう			
	見通し ①	ひまわりとあさがおのたねまきを行う	・栽培方法は誰に聞けば分かるかな?	
	追求・解決 ②	花のお世話の仕方と学級園の栽培計画 学級園への種まき苗植え	・自分たちにできる活動の計画 ・観察カードの用意	
大きく育てぼくらの○○				
2次 (6時間)	出会い ①	多様な動物たちと出会い 触れ合い体験をする	動物への見方・考え方の変容を 自覚させる出会いの工夫 ・動物のいいこと ・動物のいやなこと	地域の人材活用 (旭山動物園出張授業) 【研究視点1の2】 お礼の手紙 感想カード 【研究視点2】 活動内容の吟味(子供の生活圏を重視) 【研究視点1】 子供の日常性重視 【研究視点2】 身近な人々とのかわり 【研究視点1】 実感的な気付きを深める板書・発問 ・助言の工夫 補助資料の提示 【研究視点3】
	めあてをもつ ①	動物への気付きを交流する	・どんな感じがしたのか ・動物とどうしたいのか	
	学級で動物を育てよう			
	見通し ①	飼育する動物を決める	決めるための視点 ・継続性と日常性 ・自分たちでできるかどうか ・栽培活動との関連	
	個性的な追求活動 ①	飼育方法を調べる ・2年生への質問 ・本や資料から調べる ・家の人に聞いてくる お世話の計画を立てる	調べ方の見通しをもたせる ・だれに・いつ・どこで ・どんなことを聞くのか ・どのように(メモするのか, みんなに知らせるのか)	
活動の見直し(本時) ①	お世話の計画を交流する	主体的なかわり合いとは何か 考えさせる		
飼育開始 ①	ハムスターとの出会い	継続への意欲をもたせる		
大切に育てたいね				

6 本時の学習

(1) 本時の目標

- 飼育計画の話合いに積極的に参加し、主体的に飼育活動にかかわろうという意欲をもつ。
- 主体的なかかわりとは何か自分なりに考え、気付くことができる。

(2) 本時の展開

主な学習活動	教師の働きかけ	研究との関連
1 前時までの学習の想起	○前時までの写真から飼育活動への意識を焦点化する	
2 本時の学習内容が分かる	○発表会の流れの確認 ○発表を聞く視点の指導 ・自分たちでできるのか ・何のためにそのことをするのか	
ハムスターのお世話をする計画を話し合おう		
3 調べた飼育計画を発表し合う	○発表への補足や学びのよさを認める賞賛 ○発表内容から意欲を見取る	多様な追求活動を生かした発表 【研究視点2】
4 友だちの飼育計画を聞いた感想を発表する		
5 飼育計画について話し合う ＜話し合う視点＞ ・本当に自分たちでできるのか ・何のために育てるのか	○「自分たち中心」と「ハムスターのことを考えている」意識の違いを明確にする板書や発問・助言の工夫 ○2年生へのインタビューのVTR ・餌のやりすぎについて ・ハムスターの喜ぶ環境について	相互触発を生かした交流活動の工夫 【研究視点3】 主体的なかかわりへの重点化 【研究視点1】
6 VTRを見て考える ・ハムスターのことを考えて飼育しなくては		
7 本時のまとめ	○主体的なかかわりへの気付きを賞賛する	
ハムスターのことを考えて、自分たちにできるお世話をしよう		

◇授業を観察していただくために

○飼育計画を、「本当に自分たちで育てることができるのか」「何のために育てるのか」という視点で交流させることによって、動物を育てることと自分の生活とのかかわりへの気付きを深めることができましたか。